

きっかけは、  
何気なく参加した  
初心者陶芸教室

高橋さんが陶芸を始めたのは、昭和60年、55歳のとき。教育委員会主催の初心者陶芸教室の受講がきっかけです。

「それまでは、たまに展示会などに足を運ぶ程度でしたが、陶芸教室で作る面白さを知りました」と高橋さん。

翌昭和61年には、登別美術協会の公募展に応募し奨励賞を受賞します。「市の広報紙で募集を知って、恐る恐る持っていったんですよ。芸術作品と呼べる代物ではなかったのですが」と謙虚に振り返ります。

受賞を契機に、陶芸釜をはじめ、陶芸用具一式を購入。自宅の庭に作業場を増築して本格的に陶芸に取り組みます。

**有珠山噴火を  
イメージした作品が  
高い評価**

平成元年には、全道展に初出品し見事入選を果たします。「陶芸を始めて4年目の入選でした。でもその後は何回か落選もしましたよ」。

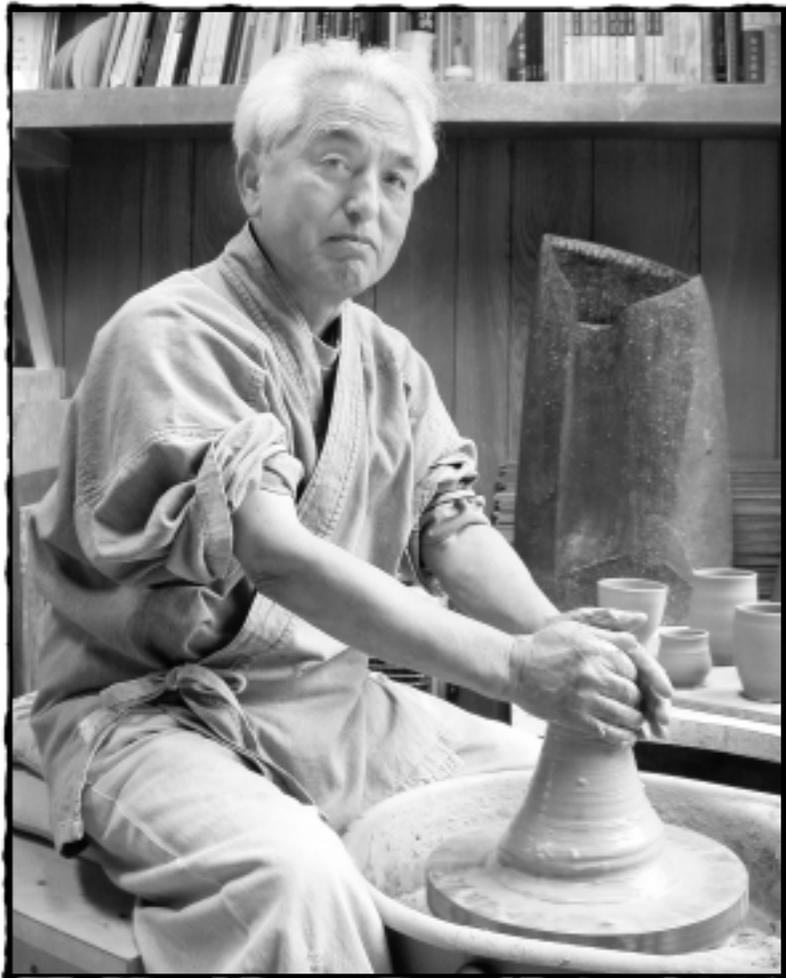
そんな高橋さんに転機が。平成12年の有珠山噴火です。「70歳に



なるのを契機にひとつつ良い作品を作ってみようと思ったところででした。噴火直後から何回も現地に足を運び作品のイメージづくりをしました。噴火の力強さを表わす納得できる作品に仕上げるまでには10個以上作ったでしょうか」。

この有珠山噴火を表現した作品で平成13年全道展の佳作賞を受賞し、同時に全道美術協会の会友に推挙されます。そして今年、層雲峡の峡谷をイメージした『渓谷の秋』が認められ、わずか1年で会員昇格を果たしました。

「陶芸は奥が深く、焼き上がった納得できる作品は100点作って一つあるかないか」と淡々と話しながらも「会員の名に恥じないように」とより芸術性の高い作品づくりに意欲を燃やしています。



KIRARI

たか はし まさ ゆき

**高橋政幸**さん(富士町)

登別美術協会会員の高橋政幸さんが、6月に札幌市で開かれた第57回全道展の工芸部門に出品した『渓谷の秋』が認められ、胆振地方から初めて全道美術協会工芸部門の会員に推挙されました。

陶芸を始めたのは55歳からという高橋さんに陶芸への思いを聞きました。

**55歳で知った自ら陶  
芸品を作り上げる喜  
び**



昭和6年、網走管内常呂町生まれ。71歳。  
登別と室蘭の両美術協会会員。趣味は将棋で4段の腕前をもつ。『登別将棋道場』会長。平成元年より民生委員児童委員を務める。